

令和7年度学校関係者評価シート(中間評価)

評価項目	区分	評価	理由・意見
目標、目標達成のための方策、評価指標、目標値等の設定の適切さ	中	B	<p>良好です。(竹川)</p> <p>現状の課題が適切に分析され、的確な目標や目標値が設定されています。(森田)</p> <p>「主体的な学びをすすめる授業の創造」は、まさに学びの根幹をなすものであり、複雑で多様な内容を含むものであるが、それを生徒アンケートのわずか1項目のみで達成状況を考察するのはいかげなものか。複数項目からなるクロスチェックによるものでなければ客観的な実態把握に結びつかないのでは。(沖田)</p> <p>「生徒の道徳性を養う」も然り。人間としての生き方・在り方に関する道徳性について、アンケート1項目の結果だけで云々できるような単純なものではない。より丁寧に、細かく、慎重な分析・考察が必要と思われる。(沖田)</p> <p>5月時点で指摘すべきでした。申し訳ありません。(沖田)</p> <p>適切に設定されています。(坂田)</p> <p>学習面・生活面ともに具体的な方策が示されていて理解しやすかったです。(杉本)</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	中	A	<p>適切です。(竹川)</p> <p>学校教育目標に沿った計画が立てられ、生徒の実態に即した適切な取組が進められている。(森田)</p> <p>適切に評価されています。(坂田)</p> <p>計画的に取り組まれていると思います。(杉本)</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	中	A	<p>小規模校の特性を活かした取組をされています。(坂田)</p> <p>学習習慣や生活面の指導が生徒の成長につながっていると思います。(杉本)</p>
結果概要と分析の適切さ	中	C	<p>家庭学習が不足している状況だと思います。読書と併せて、時間を取るよう工夫させてください。(竹川)</p> <p>適切です。(坂田)</p> <p>成果と課題が整理されていて分かりやすかったです。(杉本)</p>
今後の改善方策の適切さ	中	A	<p>小学校の時から学習意欲が芽生え、家庭学習が確実に習慣化できることで、中学校での取組み効果も大きくなると思います。</p> <p>三和中学校への進学への不安が教育環境と言われないよう保護者も含め、小中連携し、確かな学力を身につけるため引き続き、改善策の見直し等継続した粘り強い取組をお願いします。(森田)</p> <p>適切です。(坂田)</p> <p>主体的に学ぶ力を伸ばすための改善策に期待です。(杉本)</p>
総合評価	中	A	<p>大いなる成果に敬意を表します。(竹川)</p> <p>校長を先頭に組織的かつ着実に実施されており、目標達成に向けて妥当性が求められます。(森田)</p> <p>「学校だより」が町内全戸配布となり、学校の様子がわかるようになった。これからも積極的な情報発信を期待する。(沖田)</p> <p>適切に評価されていると思います。学校として対応、対策できることには限度があると思います。やはり、家庭や地域、さらには社会の動向、時代の流れがあります。(元廣)</p> <p>素晴らしい三和中となるように願っています。(坂田)</p> <p>学習面、生活面ともに成果が表れており、統廃合はおいしいです。今後も地域や家庭と協力しながら成長を支えたいですね。(杉本)</p> <p>「自己調整力・・・」や「主体的な学び・・・」「道徳性・・・」については、児童生徒のアンケートによる分析もさることながら、教師や保護者の側からの把握も加味されるべきでは。(沖田)</p> <p>当然のことながら働き方改革は推進されるべきであるが、授業改善アンケートの「授業準備が勤務時間内にできないことに負担を感じる」が気にかかる。十分な教材研究もままならないとなれば実に由々しき問題であるが、これは教師に問題があるのではない。教師は精一杯の努力をしているはず。要は、仕事量に対して人の数が足りていないからだ。行政としての抜本的打開策が講じられねばならない。(沖田)</p>

評価の欄

A:適正である

B:適正ではない

C:判断できない